

AGU NEWS No.46

青山学院大学

AGUニュース第46号
[2009年4月～5月号]

青山学院大学・広報入試センター広報課
〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25
TEL.03-3409-8111(代表)
URL <http://www.aoyama.ac.jp/agunews/>



青山キャンパス・学位授与式風景

特集  AOYAMA
GAKUIN
UNIVERSITY

4年間の学生生活を振り返って ～就職内定学生による特別座談会～

青山学院大学の進路・就職支援活動について

文部科学省の2008年度「大学教育改革支援」事業に
本学の取り組み8件が採択

TOPICS

高大連携「経営模擬体験コンテスト」を開催
「学生ビジネスプランコンテスト」においてアイデア賞を受賞

報告・お知らせ

青山学院 EVERGREEN 21 募金
2009年度 学年初頭行事について(抜粋)
卒業生へのメッセージ

誌上公開講座

青山スタンダード テーマ別科目
自然理解関連科目「ゲノム」

INFORMATION

2009年度 公開講座
2009年度 一般入試・センター利用入試志願者数

特集

4年間の 学生生活を 振り返って

～就職内定学生による特別座談会～

第一志望の進路に無事に進むことができたのは、
進路・就職センターのスタッフをはじめ、
先生や友人など、多くの方々に支えられた結果です。

まずは内定先と

その業界を目指した理由を教えてください。

松中 キヤノン(株)から内定をいただいています。機械創造工学科で学んだ知識を生かして製品の設計業務に携わりたいとの目標があり、電子機器メーカーを中心に企業情報を集めていたところ、キヤノンが行動の指針として掲げる「三自の精神(自発・自治・自覚)」が、自分自身の考え方や目指す方向性と一致していると感じ、この会社で働きたいと考えるようになりました。

石山 私は片岡物産(株)から内定をいただきました。チョコレートの「ゴディバ」や紅茶の「トワイニング」など、海外の一流ブランド食品の輸入を業務とする会社です。また輸入だけでなくドリップコーヒーの「モンカフェ」やスティックコーヒーの「アストリア」など、自社開発のブランドもあります。私は英米文学科で学ぶうちに、海外に興味を持ち、その思いが、海外の商品を日本に輸入する商社を目指すきっかけになりました。とくに「食品」に関心があったため、食品分野を扱う専門商

社の片岡物産を志望したのです。



小西 純一 法学部法学科

小西 地方公務員として、地元である荒川区役所で勤務することになりました。法学部に入り、最初は法曹への憧れもありましたが、2年生のころから公務員を目指すことを決意。国を舞台に活躍する国家公務員も魅力的ですが、地元や地域など身近な住民と直接触れ合える区役所勤務が一番の目標となりました。

**就職活動を振り返って、
印象的なことはありますか。**

石山 就職活動の終盤でこそ、片岡物産という明確な目標ができ、強い意志で試験や面接に臨むことができましたが、前半戦は何をやってもうまく行かず、落ち込んだ時期もありました。そんなときは進路・就職センターのスタッフの方に親身になって相談に乗っ

ていただけて助かりました。自分自身を深く見つめ直すうちに、海外から商品を輸入する「商社」というキーワードが見えてきたのですが、それもセンターの方のアドバイスがあったからこそです。

松中 僕は理工学部なので、相模原の進路グループのスタッフにはお世話になりました。就職活動は何をすべきか、どういう考え方で進めるべきかなど、基本的なことから教わりました。

小西 公務員一本で、一般企業の就職活動をしなかった僕は、みなさんほど進路・就職センターとかかわる機会は多くなかったと思います。それでもセンター主催の「公務員ガイダンス」に参加して情報収集したり、「模擬面接」で面接のノウハウを教わったり、ポイントごとに有効に活用させていただきました。

松中 そうですね。模擬面接は本当に役立ちました。僕の場合、大学の推薦枠でキヤノンを受けたので面接が重要だと言われたこともあり、試験前日に進路のスタッフの方に細かくアドバイスをいただいたことを覚えています。

石山 あと昨年までの先輩方が面接



就職部長
文学部心理学科教授
仁科 貞文

2007年度まで続いていた企業の旺盛な採用意欲ですが、米国の大手投資銀行の破綻に端を発し、2008年の秋以降は日本企業の業績見通しも急激に悪化。就職環境にも大きな影響が及んでいます。2009年3月卒業予定の4年生の場合は、一部に内定取り消しが発生。また2010年3月卒業予定の3年生には、まさにこれから就職

活動が始まるという9月後半から採用予定数を減らす企業が出始め、就職活動に厳しさが増えています。

今回の特集では、このような就職状況の厳しい変化のなか、それぞれの進路先が決定した3人の4年生に集まっていた、「特別座談会」として就職活動を終えた現在の心境を語っていただくとともに、あとに続く後輩たちに向けたメッセージをいただきました。

また、このような社会の環境変化に対応するために、進路・就職センターで行っている、前年までの進路就職支援活動を強化したいいくつかの施策をご紹介します。

を受けた際の質問項目の記録が資料として整理されており、同じような業界の分をコピーして、何か傾向を掴もうと何度も読み返しました。

松中 あっ、僕も読みました。「実例」なので、リアリティがあって、とても参考になりました。相模原キャンパスでも、就職活動に関するいろいろな情報を持っているので、とりあえず困ったら顔を出すという感じでした。

青山学院大学で過ごした 4年間はいかがでしたか。

小西 いま思うと大きな行事よりも、例えば授業の合間の何気ない友人との会話などが印象に残っています。青学で出会った仲間との大切な時間だったとしみじみ思います。

松中 僕も友人の大切さを実感しています。「理工テニス部」に所属して部長を務めたこともあり、部員たちと助け合ったり、けんかしたり、いろいろありました。みんながいたから、大変だったことも乗り越えられたんだと思います。



石山 美紗 文学部英米文学科

石山 私は「広告研究会」に所属して、ミスコンなどのイベントの企画・運営を担当しました。そのため3年生の学園祭が終わるまでは大忙しで、結局は本格的な就職活動も学園祭後のスタートになってしまったのですが、ひ

とつのことをやり遂げた達成感は何物にも代え難く、忙しくも充実した学生生活でした。

4月からは社会人ですが、 今後の抱負、目標などを聞かせてください。

石山 自分が目指した「商社」で働けることを幸せに思っています。そして新しいことに出会える期待感でいっぱいですが…とりたいところですが、未知の世界に飛び込む不安感も半分ですね。いろいろなブランドを扱う会社なので、将来的には新しいブランドを発掘し、興味のあるパッケージデザインなども実際に手がけて、日本市場に発信したいです。

小西 自分の生まれ育った町のために働けることに、大きなやりがいを感じています。とくに「環境」に興味があるので、区役所でも環境に携わる仕事ができればいいですね。環境問題のように大きな課題に対しては、住民・事業主・行政が三位一体で取り組む必要があります。これまでは住民の立場だったのが行政側に変わることで、より積極的に働きかけていきたいです。もちろん配属がどの部署であっても、地元の方々の暮らしやすさのために尽力するつもりです。

松中 キヤノンという会社に入社するからには、会社の人を愛し、製品を愛し、会社にとって存在感のある“人材”になりたいと考えています。そのためにもこれからの出会いのひとつひとつを大切にするとともに、いつまでも成長を続ける向上心を持ち続けたいです。

最後に、これから就職活動に取り組む 後輩へのメッセージをお願いします。

松中 うまくいかないときでも、とにかく前向きに考えることが大切。それと後悔ないように、やれることは全力でやりましょう。熱意と誠意を忘れず積極的に行動すれば、きっといい結果が待っているはずですよ。



松中 博幸 理工学部機械創造工学科

小西 公務員を目指す人は、とにかく周りの就活の動きに惑わされないこと。公務員試験は4年生になってからですが、そのころは就活の真っ只中。なかには内定をもらった人も出てきます。そんな周りを気にしすぎると焦ってしまいますから。そういう僕自身も、試験に落ちたらどうしよう…、就活を一からやり直して間に合うかな…と、不安で仕方なかったです。でも逆に、勉強を頑張る意欲にもつながりました。自分に自信を持ち、そして自分に厳しく頑張ってください。

石山 企業訪問もそうですが、就活中の大学生でなければ出会えない人や経験がたくさんあります。たくさんの人と出会って、いろいろな話をしたことは、就活に限らず、自分自身の大きな財産になるはずですよ。就職活動という機会を有効に活用し、さらに自分を成長させる経験を重ねてもらいたいと思います。

青山学院大学の進路・就職支援活動について

就職支援行事の強化

進路・就職センターでは、年間100種類を超える就職支援行事を行っています。例年よりも早い段階から就職活動に対する心構えをつきさせるために、1年生の新生オリエンテーションの際に「進路・就職ガイダンス」を行い、進路選択への関心を高めています。また今年度から、3年生の新学期ガイダンスの際に、進路就職支援行事の年間予定表を配布することで、夏休み前からの計画を立てさせています。

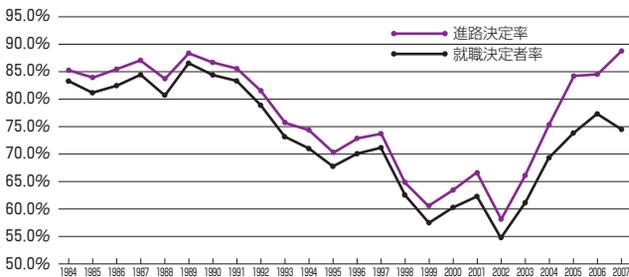
また、秋以降の就職環境の悪化に対応して、「業界研究企業セミナー」などの行事予定を前倒しにして（11月後半から12月中旬にかけて集中実施し、6510名が参加）、学生たちに緊張感を持たせました。さらに3年生のための就職ガイドブックに企業からの採用広告を取り入れ、就職活動を身近に感じさせ、就職活動の概観が把握しやすいような編集に大幅改訂を行いました。また、支援活動の一つの柱であ

る「個別就職相談（年間5000件余）」を担当する職員には面接技術研修を行い、個別相談の質的な向上を図っています。

OB・OGとの連携強化

青山学院校友会からの積極的な協力申し出もあり、OB・OGによる講演会、業界説明会や模擬面接会の実施回数・規模を増やし、学生の実践的な力を養いました。「OB・OGによる業界の本音」の行事では、各業界の第一線で活躍している卒業生から後輩に向けて、業界の実情や就職の心構えについて本音のアドバイスをいただいています。業界説明会の代表例として、マスコミ青山会によるマスコミ志望の学生への「マスコミQ&A」の行事では、マスコミ業界に強い青山学院大学ならではの、先輩からの懇切丁寧な個別指導が行われました。特に、学生に人気が高い「卒業生による模擬面接会」の行事は実施回数を増やして、青山ネットワーク会と校友会大学部会の2組織から多数

進路決定率・就職決定率推移（1984～2007年度）



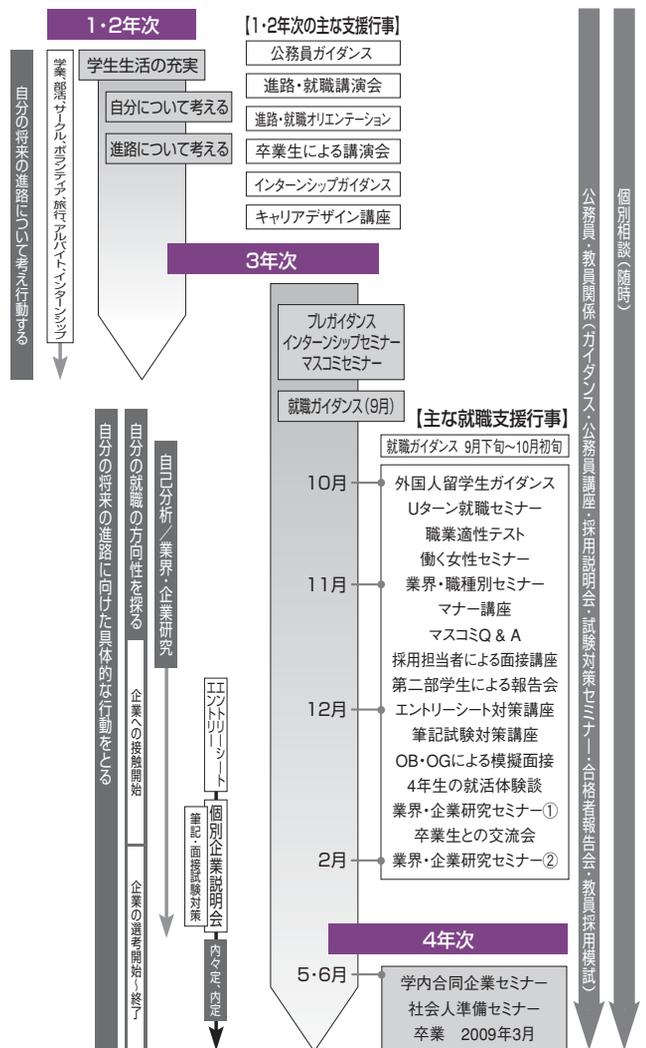
過去3年就職者数 上位20社（2005～2007年度）

人文・社会科学系（男子）			
企業名	就職者数	企業名	就職者数
(株)みずほ銀行	42	アスカファミリーライフアジャランスカンパニーオコロバ	17
日興コーディアル証券(株)	30	野村證券(株)	16
(株)三井住友銀行	28	(株)損害保険ジャパン	14
大和証券(株)	22	(株)USEN	13
(株)横浜銀行	21	(学)青山学院	12
(株)三菱東京UFJ銀行	21	(株)ジェシービー	12
三菱UFJ証券(株)	21	(株)ファーストリテイリング	12
(株)インテリジェンス	19	トランス・コスモス(株)	12
新光証券(株)	18	三井住友海上火災保険(株)	12
東急リバブル(株)	18	凸版印刷(株)	12

人文・社会科学系（女子）			
企業名	就職者数	企業名	就職者数
(株)みずほ銀行	102	アスカファミリーライフアジャランスカンパニーオコロバ	29
(株)三井住友銀行	83	野村證券(株)	27
(株)三菱東京UFJ銀行	83	(株)インテリジェンス	25
東京海上日動火災保険(株)	76	(株)エイチ・アイ・エス	24
全日本空輸(株)	62	(株)日本航空インターナショナル	23
(株)損害保険ジャパン	61	日興コーディアル証券(株)	22
三井住友海上火災保険(株)	43	日本興亜損害保険(株)	22
東京都小学校	40	(株)ジェシービー	21
日本生命保険(相)	39	三菱UFJ信託銀行(株)	21
大和証券(株)	33	第一生命保険(相)	20

理工学部、理工学研究科（男子・女子合計）			
企業名	就職者数	企業名	就職者数
キヤノン(株)	35	オリンパス(株)	11
本田技研工業(株)	26	東日本旅客鉄道(株)	10
(株)日立製作所	26	(株)東芝	10
日本電気(株)	24	(株)オービック	10
(株)リコー	24	NECソフト(株)	9
ヤフー(株)	19	富士通(株)	8
(株)NTTデータ	18	キヤノンマーケティングジャパン(株)	8
トヨタ自動車(株)	16	カシオ計算機(株)	8
日本アイ・ピー・エム(株)	12	(株)ブリヂストン	7
日本ユニシス(株)	11	東日本電信電話(株)	6

進路・就職支援のプロセス（2008年度実績）



進路の報告

卒業・修了が決定したみなさんへ 進路報告書の提出先

青山キャンパス（人文・社会科学系学部）
 …… 進路・就職センターへ「進路届」を提出
 相模原キャンパス（理工学部、理工学研究科）
 …… 学生支援ユニット進路グループへ「進路先届」を提出

※人文・社会科学系の大学院生については、学位記を受け取る際に、進路に関する調査用紙をご提出いただけます。

のOB・OGの協力を得て行われ、参加した369名(昨年度は200名)の学生たちの満足度は非常に高かったようです。

企業採用担当者との関係の強化

学生の就職力を向上させる行事だけでなく、企業の採用担当者に対して直接に青山学院大学の学生の採用を働き掛ける「情報交換会」を10月と12月に行いました。この会合には青山学院からは理事長、院長、理事が、大学からは学長、副学長、学部長、各学部就職委員(教員)など50名が参加していただき、青山学院と大学の執行部が総出で参加することで、200社(約250名)の企業採用担当者に対して、青山学院大学の就職支援にかける熱意の強さを伝えることができたと考えています。

内定取消への対応

企業の倒産や業績不振などにより、新規採用予定者の内定取消が話題になっていますが、本学でも内定取消を受けた学生(2009年3

月卒業予定者)の実態調査を12月に急遽実施し、1月時点で申し出があったのは8名、このうち当年度内に就職を希望する学生に対しては個別に就職活動の支援を行い、すでに数名の内定が決まっています。また次年度以降に就職活動継続を希望する学生には、新たに「採用内定取消者等の卒業延期制度」を設けて、卒業延期中の学費減免を可能にし、出来る限り学生の不利にならないような対応を行っています。

2009年に入り、企業の業績悪化や正規社員の削減のニュースが相次ぐようになり、4月以降の新規採用にもかなりの影響が出るものと予想されています。このように、厳しい就職環境下でも、学生たちがより納得の行く成果を上げられるように、進路・就職センターでは、今後も環境変化に対応した就職支援活動を行っていきたくと考えています。

(就職部長 仁科 貞文)

キャリア形成支援課外講座

相模原キャンパスでは、青山スタンダード課外講座(単位なし)として1・2年生を対象に下記内容を実施いたしました。

【キャリアデザイン講座 1・2年生対象】

1年生には「大学に通う楽しさを知る」を目的とし、2年生には「社会人基礎力を養う」を目的として行い、それぞれにグループワークを通して1年生は「友達づくり」を、2年生は「キャリアプランを見据えた今後の目標設定を行う」をテーマとして実施しました。

また1・2年生混合クラスを設けることによって、コミュニケーションの大切さを知ること、ビジネスゲームを取り入れることによって、「聞く力」「情報収集力」「文章力」「プレゼンテーション力」を習得することを楽しみながら行いました。また「社会人基礎力診断テスト」を実施することで、社会で求められる基礎的能力を把握することができ今後の目標設定の参考として自己成長を促しました。

●2008年4月30日(水)～2008年5月21日(水)実施

※ 毎週水曜日開講。全4コマ。

【ビジネススキル養成講座 1・2年生を中心とした全年生対象】

新聞の読み方のポイントをおさえ、現代経済の仕組みを理解し、自ら問題意識を持って考えることで新しいビジネスを創造する能力を養成することを目的としています。また、事実関係だけでなくニュースの背景を読むことの大切さを知ること、さらに新聞を利用することで「読解力」「情報分析力」を身に付けることができることを学びました。特に今回は金融危機の発端となったサブプライムローン問題や雇用問題についても解説を加えました。講座の一貫として「日経TEST 経済常識版」を実施し、論点解説を行うことで、経済の大きな流れを把握することができました。

●2008年11月21日(金)～2008年12月5日(金)実施

※ 毎週金曜日開講。全3コマ。

キャリアデザイン講座

青山 キャンパスでは『社会で生きるシリーズ』として第二部1・2年生対象のキャリアデザイン講座を実施しました。将来について楽しんで考えながら、コミュニケーション力(聞く・書く・話す)を向上させる目的で、講義、ワーク・ゲームを通して考える講座です。

自分を知り、表現するために『社会を知り自分を知る:コミュニケーション力をつけよう』と『考えをまとめて表現する:文章力・プレゼンテーション力をつけよう』の2回のシリーズに分けて実施しました。参加した学生から「自分の将来について考えるようになった」「とりあえず行動を起こそうと思った」という感想がありました。

●第1回2008年5月20日(火)～2008年6月10日(火)実施

※ 毎週火曜日開講。全4コマ。

●第2回2008年6月19日(木)～2008年7月10日(木)実施

※ 毎週木曜日開講。全4コマ。

大職研の会長校として貢献

首都圏約200校の私立大学就職関係部署で構成される、大学職業指導研究会の2008年度会長を、進路・就職センター上倉事務局長が務め、大竹課長が事務局長として事務局を運営しています。



大職研の中心となる、分科会 進路・就職センター事務局長 上倉 功 活動(一分・企業研究と情報交換中心 二分・学生指導に直接役立つ研究センター 三分・女子学生の支援 四分・理工系学生の支援)の調整役として、また本体の行事として新任者研修会、新年賀詞交歓会、管理職相当者研修会等を主催し、大職研ニュース発行など会員校への情報提供を行っています。

1 月末には、企業の内定取消しに対処できるよう、顧問弁護士からの説明会を会員校のために緊急に開催しました。

文部科学省の2008年度 「大学教育改革支援」事業に 本学の取り組み8件が採択。

大学組織としても各研究を全面的にバックアップしていきます。

今号ではNo.45
で紹介できなかった他の4件の
取り組みを紹介
します。



青山学院 知的資産連携機構担当 法学部 法学研究科 菊池 純一 教授

青山学院「知的資産連携機構」の取り組みが、 文部科学省「産学官連携戦略展開事業〈戦略展開プログラム〉」に採択

2004年に設立された「青山学院知的資産連携機構」は、学院内の「知的資産」を評価・保全・活用し、青山学院のブランド力、および経営力の向上につなげる役割を担っています。

例えば、大学から発信された情報であっても、幼稚園から大学、大学院まで、青山学院全体の「知的資産」になるというのが、「青山学院知的資産連携機構」の基本的な考え方です。つまり、青山学院内のすべての教員と職員が、「知財情報」を共有できるよう、情報が学院内をスムーズに循環するシステムづくりを目指しています。

さらに、事業名に「戦略展開プログラム」とあるからには、活動のなかに何かしら

の「戦略」が必要となります。そこで具体的な施策として、知的資産連携機構では、ふたつの取り組みをスタートさせました。まずは理工学部の澤邊厚仁教授とのコラボレーションです。これは、澤邊教授が社長を務めるハイテクベンチャー企業「AGDマテリアル(株)」と提携し、ダイヤモンドの新しい用途を提案するコンソシアムを構築、運用しようというもの。AGDマテリアルで開発を進めるダイヤモンド薄膜は、多くのメリットと可能性を秘めており、知財としても大きな価値があります。こうした法学部と理工学部の教員同士が連携を取ることも知財の活動ならではといえそうです。

そしてもうひとつの取り組みが、「知

財クリニック」の充実。クリニックは、明らかに誤った扱いをしている知財を「病気」と定め、その診断および治療を行うことが目的です。私の他にも外部から“知財のプロ”を招き、「治療」にあたっています。同時に、こうしたクリニックの現場を知財の最先端を学ぶための教育の場と位置付け、知財に通じた人材育成にも注力。本学大学院法学研究科のビジネス法務専攻知財法務コースに、知財クリニック・ドクター(PhD)コース(博士課程)を設置し、知財のプロ養成を目指しています。

以上のような我々の取り組みが、多くの方々「知財」を理解し、認識していただける機会となれば幸いです。



大学院 理工学研究科 田部 勉 教授

理工学研究科の取り組み「学際性を備えた実践的科学者・技術者の育成」が 文部科学省「大学院教育改革支援プログラム」に採択

理工学研究科は、平成16年度に5専攻から1専攻8コースへ改編し、高度な理工学研究への適応力を養成する「専門フロンティアプログラム」と、科学技術を広い視野から評価し社会へ向け情報発信する力を養う「複合フロンティアプログラム」を設置するなど、教育体制の一新を行いました。今回の取り組みは従来の教育に新たなプログラムを発展的に加えたもので、産業界で高い応用能力を発揮する科学者・技術者を博士前期課程・後期課程で育成することを目的としています。

博士前期・後期課程修了レベルの知識を有する人材が産業界で能力を発揮するには、その高度な専門知識を有用に生かすためのスキルを身につける必要が

あります。私たちはプロジェクトの創設にあたり、専門知識・技術を実践的に用いる「実践応用力」、英語力を国際舞台で駆使する「国際的に通用する力」、ITを用いて情報を発信・管理・運用する「情報発信力」の3つを最重要と考え、それぞれを強化する「実践応用力強化プログラム」「国際性教育プログラム」「大学院アクティブポータルサイト」を立ち上げました。

「実践応用力強化プログラム」では、学生主導の講演会の開催やインターシップの実施、現場で直面した問題点の解決方法を考察する「実践応用力トレーニング」の実施により、理論と実務の架橋を図ります。「国際性教育プログラム」では、英語による実践的プレゼンテーション

に取り組むほか、独自のe-learning英語教材の開発、海外短期留学制度の充実化を推進します。「大学院アクティブポータルサイト」は、情報発信スキルの養成のほか、「実践応用力強化プログラム」「国際性教育プログラム」のコンテンツのデジタル化、学外の研究機関や企業・組織とネットワーク上で共同研究に取り組む「バーチャルリエゾンオフィス」の構築などの役割を担います。

現在 プログラムは、民間企業や海外の教育機関との連携の強化、新たな科目の設置など、着々と計画が遂行されており、すべてが実現した暁には、社会の発展、学内の教育研究に大きな貢献を果たすはずで

副学長 長谷川 信



大学教育改革を目的とする文部科学省の2008年度募集事業において、8件もの本学の取り組みが採択されました。ここ3年間で、0件、1件、8件と一気に採択件数が伸びてきましたが、各学部・学科の先生方の意識改革に伴う積極的な取り組みがなされた結果であると考えています。青山学院大学として、本当に喜ばしいことです。

採択された8件のテーマを見ると、実にバラエティ豊かな事業内容が並びます。社会との連携、大学院教育の高度化と大学間連携、学院全体にわたるものなど、いろいろなタイプの事業に取り組んでいる点に、本学の奥深さをあらためて感じさせられました。今後は、採択されたことで満足せず、目標に応じた成果を形にし、また、その取り組みを継続していくことが大切です。大学としても責任を持って、それぞれの事業をバックアップする体制を整えてまいります。各取り組みの今後の成果にご期待ください。



理工学部情報テクノロジー学科 稲積 宏誠 教授

文部科学省「戦略的大学連携支援事業」に、北里大学と合同で取り組む「実践的プロジェクト教育による多角的連携に基づく人材育成と医療イノベーション」が採択

少子高齢化における医療経済の問題、医療機関や医療従事者の需要と供給の問題等をはじめ、日本の医療制度に関する課題は山積みの状態です。それらの課題のなかには、「医療経営」の難しさから発生しているものも多く見られますが、日本国内において医療経営に関わる人材を教育する機関が少なすぎる現状があります。

今回の取り組みでは、医療・薬学・衛生の分野で屈指の評価を受けている北里大学と、130余年の学院としての歴史を有し、文系・社会系・理工系における最新鋭の教育・研究実績を有する青山学院大学とがコラボレーションし、両大学の連携があって初めて実現できる「実践的プロジェクト教育」を推進していきます。そ

の中核を担うカリキュラムが「プロジェクト型共通演習」。これは、北里大学の医療関連領域を学ぶ学生、あるいは本学で人文・社会、情報、理工学等を学ぶ学生が、それぞれの専攻分野の知識を背景に、一同に学ぶプロジェクト型の演習科目です。お互いの意見・考え方を交換することで、新しい学びの発見、および即時性とリアリティの高い演習内容を実現できます。

カルチャーも制度も異なる大学間の交流は、さまざまな形での波及効果を生み出すことも期待されます。学生にとっては、各自の所属する大学または専攻分野では決して得られない知識の習得と、多彩な学生との交流によるコミュニケーション能力の向上が可能です。大学組織・教

員(研究者)は、特にFD/SDプログラムを共同で実施することにより、ごく自然な形で外部(相互)評価を定常的に実施でき、個々の人間力、組織力の向上につながります。そして地域・社会に対しては、即効性のある効果として「プロジェクト型共通演習」で検討された結果をシンポジウム、学会、論文などで公表することで社会への還元、また長期的な効果として、視野の広い俯瞰的人材を育成・輩出することによる国内医療の仕組みや質の底上げが可能となります。

そして将来的には、共同大学院の設置を見据えた活動も視野に入れていくつもりです。ぜひご注目ください。

オリジナルサイト <http://www.healthcare-solution.org/>



大学院 会計プロフェッション研究科 松井 隆幸 教授

文部科学省「専門職大学院等における高度専門職業人養成教育推進プログラム」に、大学院等が取り組む「会計大学院におけるコア・カリキュラム」が採択

全国の会計大学院に通う院生の多くが、公認会計士を目指している現状があります。そのため大学院のカリキュラムどうしても資格試験を意識したものが中心となり、本来は重要であるとされながらも試験に直結しない科目への意識は薄くなりがちでした。加えて、会計大学院の歴史はまだまだ浅く、本大学院の会計プロフェッション研究科も2期生を輩出したばかりです。果たして、本当の意味で「コア・カリキュラム」と呼べるものが確立されているのか。今後、確立してゆくにはどのような方向が望ましいのか、といったことを見直す意味で取り組むことになったのが今回の事業です。

ともに会計大学院を備える東北大学

および関西学院大学と連携しながらの取り組みとなりましたが、これは単独で行うよりも相互で知識を持ち寄って検討することで、より良い方向性を導き出す目的があります。そしてもう一点、ここで導き出す「コア・カリキュラム」は、ある意味で日本の会計大学院における“スタンダード”と呼べるものになりたいとの3校共通の思いがあり、そのためには単独で動くよりも連携した方がアピール度も含めてメリットが大きいと考えたものです。

具体的な取り組みの中身としては、まずは会計大学院において今の時代に必要と思われる4科目の「コア・カリキュラム」を設定しました。それが「会計職業倫理」「監査支援ソフトウェア」「国際会計基準」

「インターンシップ」です。そして、2009年3月までをこれらの科目をどう展開していくべきかの情報を集め、調査する期間と位置付けています。

現在は、まだ取り組みがスタートしたばかりですが、公認会計士を目指す人はもちろん、税理士志望やキャリアアップが目的の社会人の方まで、会計大学院で学ぶ人たちみんなに必要とされる「コア・カリキュラム」を構築したいと考えています。また、せっかくの機会ですので、調査から導かれた情報などを、本会計プロフェッション研究科の現状の授業にも取り入れ、「リアルで生きた学び」の提供にも結び付けていくつもりです。今後の成果にぜひともご期待ください。

本学において、高大連携「経営模擬体験コンテスト」を開催

「経営模擬体験コンテスト」は、青山学院大学、青山学院女子短期大学、青山学院高等部、三井化学株式会社、NPOジュニア・アチーブメント日本の共催で実施された、「経営」の疑似体験コンテスト。ジュニア・アチーブメント日本が提供する「MESE (Management Economic Simulation Exercise)」というビジネスシミュレーション・プログラムを用いて、2~3名で構成された全56チームそれぞれが「会社」となり、ビジネスを疑似体験し、その結果で優秀チーム(学長賞)を目指すものです。優秀チームには三井化学(株)より「米国研修旅行」が贈られることもあり、参加者は真剣に「経営」を疑似体験しました。

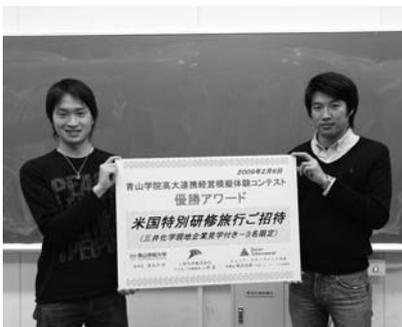
今大会の参加チームには、青山学院の大学院生、大学学部生、短期大学生、高校生が一堂に会すとともに、三井化学(株)の社員の方も参加。高大連携はもちろん、産学連携も同時に実現する画期的な試みでした。

「MESE」は、コンピュータを活用して意志決定力を養成するシミュレーション・プログラム。参加者は、与えられる自社情報や業界情報を資料とし、段階を追って問われる課題に対する“意思決定”を行います。そして、決定した判断の結果がすぐに数字

として現れ、その結果と新しい情報をもとに、また次の意思決定に生かしていく——と、まさにビジネスの成功と失敗をリアルに体験することができるのです。

最初は「価格」と「生産量」を決めるだけで良かったものが、シミュレーションが進むとともに、「研究開発費」や「設備投資」、さらに「宣伝広告費」が意思決定する項目に加わるなど、どんどん複雑化。「意思決定には“結果”と“責任”が伴う」という社会の現実を、ビジネスシミュレーションを通じて参加者全員が認識できたはずで

見事に優秀チームに輝いたのは、法学部4年生の嶺平君と地島史洋君のチーム。2009年4月より社会人となる2人にとって、一足早い“ビジネス体験”が米国研修旅行という当人たちも驚きの副産物を生み出しました。



米国研修旅行を獲得した嶺君(左)と地島君



「平成20年度学生ビジネスプランコンテスト」において 経営学部 戒野ゼミの学生がアイデア賞を受賞

自ら考え、行動できる学生の育成を目的とする、財団法人学生サポートセンター主催「平成20年度学生ビジネスプランコンテスト」。今回、経営学部の戒野敏浩ゼミに所属する3年生の磯部晋平君、佐藤圭祐君、飯塚菜美さんの作品「複数企業共有型託児所ビジネス ～働く女性をサポート～」が優秀賞に次ぐアイデア賞を受賞しました。

戒野ゼミでは、学生に「ビジネス」や「経営」を“実体験”させるため、学生参加型のビジネスコンテストへの応募を積極的に行っています。今回も学生たちはプロジェクトチームを結成し、新しいビジネスプランに挑戦しました。

「託児所が不足して働く女性が困っている」との情報を見つけて「ビジネスになる」と直感した磯部君。「中小企業で自前の託児所設置は困難。でも複数企業が共有する形で利用できる託児所があれば…と考えたのです」。

この磯部案に、飯塚さんも「いま社会では待機児童の多さが問題。社会貢献にもなる」と共感。また「老人ホームと幼稚園との一体化など育児系のプランを考

えていた」という佐藤君も賛同し、新ビジネスの方向性が固まりました。

しかし、本当に大変なのはここからでした。コンテストでアピールするには、このプランがビジネスとして成功することを“証明”する必要があります。企業への電話アンケート、東京都への認可確認、収支シミュレーションなど、飯塚さんが「大学生になって、こんなに頑張ったのは初めてかも…」と言うほど、多忙な毎日。それでもアンケートで多くの企業から「魅力的な内容」との回答を得られ、プレゼンテーション資料は「大きな達成感がありました」と、佐藤君も胸を張る内容に仕上がりました。

その結果、優秀賞に次ぐアイデア賞を受賞。しかも表彰式の席



写真左から飯塚菜美さん、磯部晋平君、佐藤圭祐君、戒野敏浩教授

上で、審査員から「あと一步で優秀賞でした」とコメントされるほどの高評価でした。リーダーも務めた磯部君は、「座学と違い自分たちで行動したり、調べたりする毎日は新鮮であり、貴重な体験でした。ただ後で聞くと、財務の部分が足りなくて優秀賞を逃したそうです。やっぱり座学も大切ですね(笑)」と話します。

3人の学生たちは、受賞よりもプラン立案までの過程を通じて、将来につながる大きな経験を手に入れたようです。

伝統の“集中力と粘り”で第55回全日本大学選手権大会優勝 女子バレーボール部の生瀬監督と土田主将に聞く、勝利の喜び



女子バレー部
生瀬 良造 監督

全日本インカレは準々決勝から決勝までの3試合すべてフルセットの厳しい戦いでした。

決勝相手の東海大は、我が部に劣らずスピードを武器にしているチーム。強打ボールでのレシーブ練習と正確なつなぎバレーに磨きをかけたことで、勝つことができました。

大学の団体スポーツの多くは、精神力が勝敗を左右するので、相手に勝るひとつのプレーがチーム全体に勢いをつけ一体感を生みます。3年生以下の部員たちが、闘志溢れるプレーで4年生の最後の大会だから4年



生のために勝ちたいとコートの内外で力を合わせて頑張り、4年生はその後輩の思いに感謝しながら全力を出し切って闘いました。その結果が今回の全日本インカレ優勝をもたらしたのだと思います。



文学部4年
土田 望未 さん

秋季リーグでは屈辱の5位に甘んじましたが、12月の全日本インカレは4年生には最後の大会。後輩たちも「4年生のために頑張ります」と言ってくれ、全員心に期すものがありました。5試合目の鹿屋体育大学戦はフルセットまでもつれたのに、なぜかとても楽しく感じました。味方も敵も実力の120%を出して1球を追う、その緊迫感から生まれるス

ポーツの真の面白さ、醍醐味を楽しんでいたのです。この試合で、コートの中も外も本当にひとつになりました。決勝相手の東海大学が1年生中心なのに対して、私たちは3、4年生のチーム。若さの勢いに押されることなく、ベテランの技で勝とうと意思統一をし、拾いに拾いまくって青学らしい粘りを発揮し、ついに優勝しました。私たちが信じてくれた監督、コーチ、可愛くもまた頼りがいのあった後輩たち、そして応援してくださった皆さん、本当にありがとうございました。

レスリング部 尾曲 伸乃祐君が全日本大学グレコローマン選手権にて優勝 全日本学生選手権と合わせ、2008年度2冠を達成



経済学部3年
尾曲 伸乃祐 君

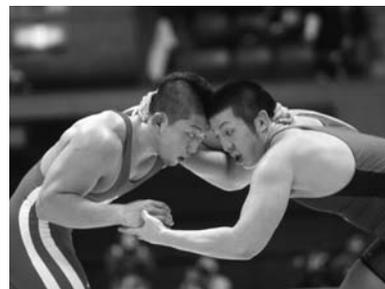
2008年10月23・24日に東京・駒澤体育館にて開催された「全日本大学グレコローマン選手権」84kg級において、レスリング部の尾曲伸乃祐君（経済学部3年）が優勝を果たしました。尾曲君は8月28～31日にかけて大阪・金岡公園体育館で行われた「全日本学生選手権」グレコローマン84kg級でも優勝しており、見事に国内大会2冠制覇を成し遂げました。さらに2009年2月7～9日（日本時間）にアメリカで開かれた「デーブ・シュルツ国際大会」に日本代表として出場。

1回戦で敗れはしたものの、代表の名に恥じない堂々とした闘いを見せてくれました。尾曲君に今シーズンの大会を振り返ってもらうとともに、今後の目標についてお話を聞きました。

レスリングをはじめた中学3年のときから、オリンピック出場を目標に掲げています。この夢を実現するためには、まず国内の大会で結果を出さなければなりません、大学1・2年ではなかなか思うような成績を残せませんでした。それだけに、全日本学生選手権、全日本グレコローマン選手権の優勝は、夢への足がかりとなる、本当にうれしい勝利でした。また、この2冠達成には、ほかにも特別な思いがありました。それは、太田浩史監督が現役時代に成しえなかった2冠へ

の悲願を実現できたこと。太田監督は、本学レスリング部現役時代、私と同じグレコローマン84kg級の選手で、全日本学生選手権を征しながら、全日本大学グレコローマン選手権で優勝を逃した経験をもっています。尊敬する監督への恩返しのひとつできた意味でも、私にとっては感慨深い大会となりました。

2月の「デーブ・シュルツ国際大会」は、高校以来となる国際大会の舞台でした。この大会でとくに印象的だったのは、日本人選手と外国人選手とのファイトスタイルの違い。私が手を合わせたアメリカの選手は、パワーがあるうえに、それまでに経験のない反則ぎりぎりの攻撃を



写真提供＝青山スポーツ

仕掛けてきました。1回戦で敗れはしましたが、世界の強豪と戦ううえで自分に何が必要かを知る、意義のある経験になったと感じています。

私がいま最終目標に据えているのは、2012年に開催されるロンドン五輪。その選手となるために、国内の大会でさらなる成果をあげ、国際大会での実績を重ねたいと考えています。常に世界と闘う気持ちでこれからも練習に励んでいくつもりです。

青山学院とマイクロソフト(株)が、 「学校経営力の強化」と「国際競争力のある人材の育成」を目指して産学協同を発表

2008年12月1日(月)、本学の総研ビル11階において、松澤建青山学院理事長、樋口泰行マイクロソフト株式会社代表執行役社長をはじめとする双方の関係者が出席するなか、青山学院とマイクロソフトが、学校経営力の強化と国際競争力のある人材育成を目指し、産学間で協同していくとの主旨の記者会見が行われました。



樋口泰行 マイクロソフト(株)代表執行役社長(左)と
松澤建 青山学院理事長(右)

従来より本学院では、マイクロソフトと契約を交わし、教職員や学生が、同社の最新ソフトウェアを活用できる環境が整っていますが、今回はCRMや仮想化など、さらに先進的なシステムを国内最大規模で導入。学校経営の効率化や学生の学習・指導計画等におけるその効果を、本学院とマイクロソフトが協同で検証してまいります。

今回の産学協同で効果が検証される内容は、大きく分けて以下の4つです。

1.マイクロソフトのコミュニケーションツールを、 在学生とその保護者、卒業生、教職員など、15万人に提供

マイクロソフトの教育機関向けコミュニケーションツールを、2009年4月から、まずは青山学院の教職員と青山学院大学の在学生の計3万人を対象に提供します。そして順次その対象を幼稚園、初等部、中等部、高等部、女子短期大学、大学院の在学生とその保護者に拡大。さらにオープンキャンパスの参加者や、青山学院の卒業生の組織である青山学院校友会にまで広げることにより、世界最大規模となる15万人が活用するツールとなることを目指します。

なお、このコミュニケーションツールは、メーリングソフト等を介して、利用者がパソコンや携帯電話から、電子メール、連絡先、カレンダーなどの情報にアクセスでき、迅速かつ円滑なコミュニケーションが可能となります。また、すでに全世界80カ国以上、数千校で利用されている実績があるため、将来的には青山学院の関係者だけでなく、海外の学校との交流にも活用できる可能性を秘めています。

2.マイクロソフトの企業向け顧客管理システムを、 在学生や卒業生の情報管理に活用

マイクロソフトで企業向けに提供している顧客管理システムを、今回初めて教育機関において活用します。具体的には、2009年6月から青山学院校友会向けのシステムとして利用をスタートし、その後、対象を幼稚園から大学・大学院までの在学生にまで順次拡大。在学生や卒業生一人ひとりのデータを集積、活用できるよう一括管理することで、各学校からの情報提供が効率的に行えるようになります。

こうした在学生の入学時からのすべてのデータを一元管理することで、過去の情報を参考に、より効果的な学習・指導計画を個々の在学生に応じて提供できるほか、それらがもたらす学力の向上は、青山学院のブランドイメージの向上にも寄与すると考えられます。

3.初等部から大学・大学院までの在学生のアカウント管理を、 マイクロソフトの情報管理基盤に一元化

従来、初等部から大学・大学院までのそれぞれにドメインを立てて、在学生のアカウントを管理していたものを、マイクロソフトの情報管理基盤に一元化。在学生のドメインをひとつに統合することで、認証作業が1回で済み、他のシステムとの連携や移行をスムーズに行うことが可能となります。そのため、在学生がシステムにアクセスする際の利便性が向上。さらにIT管理者の負担軽減も期待できます。

4.マイクロソフトのアプリケーション仮想化技術を、 計3,000台からなるシステムに導入

2009年4月より、マイクロソフトのアプリケーション仮想化技術を、青山学院大学と女子短期大学のシステム計3,000台に導入します。この最新技術の導入により、多言語・複数バージョンのアプリケーションを同時に利用できる環境を実現。同一のアプリケーションにおいて言語やバージョンが異なることにより発生するさまざまな問題を解消できます。また、アプリケーションの仮想化によって、最適な言語・バージョンのアプリケーションを、必要とする人にスムーズに提供できるため、学習・研究時に、より快適にパソコンを活用できることはもちろん、留学生のパソコン利用や、海外の学生との活発なコミュニケーションなどにも大きな効果を発揮します。

21世紀の総合学園創造のために、 「青山学院 EVERGREEN 21 募金」へのご協力をお願いします。

募金期間あと10ヵ月
目標額 50億円
目標額達成率 46% 目標額まで27億円
(2009年1月末現在)

いよいよラストスパートです。
皆様のご支援をお願いいたします。

お問い合わせ:募金事務局(本部3F)
TEL: 03-3409-6208 FAX: 03-3409-3890

募金対象事業

【青山キャンパス再開発】

校舎の建設、環境整備等、魅力ある都市型キャンパス再構築
個人 1口5万円 (スタンダードコース)

上記の金額、口数にかかわらず、ご支援いただければ幸いです。

お申込・払込方法

本学所定の振込用紙が必要です。

青山学院募金事務局までパンフレットをご請求ください。

*個人によるご寄付は税制上の優遇措置の対象となります。

【在学生支援体制の充実】

給付型奨学金「青山学院スカラーシップ制度」の充実
選べる2つの支援体制

■冠奨学金

寄付者のお名前を冠し、寄付者による給付条件
金額の設定(15万円以上~)

■エバーグリーン奨学金

金額の設定なし。任意の額のご支援。

2009年度 学年初頭行事について(抜粋)

授業開始前の行事についてお知らせします。各自、あらかじめ計画して、指定の日時に登校してください。
ここに掲載する行事以外にも重要な行事がありますので、下表の「書類配布」において配布する資料を必ず確認し、
行事に出席してください。(「学生ポータル」で、より詳細な情報を確認することができます)

青山キャンパス 【昼間部】

学部・学科	書類配布	場所	履修ガイダンス	場所	備考	学生証更新	健康診断(7号館2階音楽室)	
文学部 教育学科	12:30	カウチャー 記念礼拝堂 1階ロビー	13:00	1123教室		4月2日(木)、3日(金)、 6日(月) 9:30~11:30 13:00~15:30 2号館2階 所要時間:約30分(混雑時) ※4月4日(土)は 入学式当日の為、 更新はできません。	4月2日(木)、 3日(金)、 6日(月)、 7日(火) 9:00~11:00 13:00~15:00 17:00~19:00	
文学部 英米文学科	10:30		11:00	930教室				
文学部 フランス文学科	12:30		13:00	922教室				
文学部 日本文学科	10:30		11:00	1173教室				
文学部 史学科	12:30		13:00	920教室				
文学部 心理学科新4年生(昼間主)	12:30		13:00	1143教室	13:30より「卒業研究II」説明会			
文学部 心理学科新3年生	12:30		13:00	921教室	13:30より「卒業研究I」説明会			
経済学部	9:30		910教室1階入口	10:00	910教室			
法学部	9:30		4号館1階廊下	10:00	420教室			始業伝達式含む
経営学部	12:45		910教室1階入口	13:15	910教室			
国際政治経済学部	12:45	6号館1階廊下	13:15	621教室				
総合文化政策学部	12:45	4号館1階廊下	13:15	420教室				
文学部 心理学科新4年生(夜間主)	18:00	1143教室	18:30	1143教室	19:00より「卒業研究II」説明会	4月2日(木)、3日(金)、6日(月)は 17:00~20:00		

書類配布・履修ガイダンスについて(各学年とも留年者を含む) 4月2日(木) 文学部新4年生、経済学部新3年生、総合文化政策学部新2年生 4月3日(金) 新3年生(経済学部を除く)

【第二部(夜間部)】

学部・学科	書類配布	場所	履修ガイダンス	場所	備考	学生証更新(1号館2階)	健康診断(7号館2階音楽室)
文学部第二部 教育学科	18:00	7号館1階 学生ロビー	18:30	920教室	新2年生、新4年生	4月2日(木) 17:00~20:00 第二部文学部のみ 4月3日(金)、6日(月) 17:00~20:00 第二部全学科 所要時間:約30分(混雑時)	4月2日(木)、3日(金)、 6日(月)、7日(火) 9:00~11:00 13:00~15:00 17:00~19:00
文学部第二部 英米文学科			19:45	920教室	新3年生		
経済学部第二部			18:30	1173教室	新3年生、新4年生		
経営学部第二部			18:30	14509教室	新2年生		
経営学部第二部			18:30	621教室			
経営学部第二部			18:30	930教室			

書類配布・履修ガイダンスについて(各学年とも留年者を含む) 4月3日(金) 文学部第二部新3年生・新4年生、経済学部第二部、経営学部第二部 4月6日(月) 文学部第二部新2年生

●教務課からのお知らせ

- ※履修ガイダンスの所要時間は30分~60分程度です。
- ※2009年度の編入学・転部・転学部・転学科生は「2009年度学年初頭行事案内(編入学・転部・転学部・転学科生用)」を参照してください。

●学生部からのお知らせ(学生証更新について)

- ※学生証裏面の在籍確認シールは、毎年4月に更新となります。新しい在籍確認シールの交付を受け、現住所、大
学から自宅までの通学区間をボールペンで記入後、各自で貼付直してください。
- なお、更新時に学生証を紛失している場合は、あらかじめ学生部厚生課にて再交付の手続きを済ませてください。
- ※大学院生(青山キャンパス)は、大学院事務室または専門職大学院事務室掲示板を参照してください。

●保健管理センターからのお知らせ(健康診断について)(受診の義務:青山学院大学学生共通細則第9条)

- ※学年等により検査項目が異なります。
- 1:視力検査のため、メガネ、コンタクト使用者は必ず持参してください。
- 2:女子はレントゲン検査のために、無地に近いTシャツを着用もしくは持参してください。
- 3:健康診断を受診できなかった場合は、外部診療所へ行き自費で受診することになります。依頼書等がセンター
窓口にあるので取りに来てください。健康診断未受診の場合、健康診断証明書は発行できません。(就職・
教育実習・介護等体験・奨学金・体育集中講義等に必要です。)
- 4:4年生は、受診前日までに検尿容器を7号館1階保健管理センターまで取りに来て、健診受診時に健診会場へ
採尿済み容器を持参してください。
- ※学生健康診断について何か質問のある方は、直接保健管理センター窓口もしくは03-3409-7896にて確認して
ください。

相模原キャンパス

4月1日(水) 新2年生(文・法) / 新3・4年生(理工) ☆は学生番号を表す

学部・学科	書類配布	場所	履修ガイダンス	場所	学生証更新	奨学金募集説明会	健康診断(D棟)
文学部2年生 英米文学科	13:30	E棟1階 E105	14:00	E101	13:00~16:30 更新場所: F307・F308	新規希望者 (ただし、学部生のみ) 10:00 E101・E102 ※理工学部3年生は4月3日(金)	4月2日(木)、 3日(金) 9:00~10:30 13:30~16:30
文学部2年生 史学科	13:30		14:00	E104			
文学部2年生 心理学科	13:30		14:00	E102			
法学部2年生	13:15	E棟1階 E106	13:45	E301(☆13108001~13108300) E302(☆13108301~最終番号および2007年度以前入学者)			
理工学部3年生	10:00	E棟2階 E206	10:30	E201(物理・数理、化学・生命科、機械創造工) E202(電気電子工、経営システム工、情報テクノロジー)			
理工学部4年生	14:00	E棟2階 E206	14:30	E201(物理・数理、化学・生命科、機械創造工) E202(電気電子工、経営システム工、情報テクノロジー)			

4月2日(木) 新2年生(文・理工) / 大学院(理工・社会情報)

学部・学科	書類配布	場所	履修ガイダンス	場所	学生証更新	奨学金募集説明会	健康診断(D棟)
文学部2年生 教育学科	9:30	E棟1階 E105	10:00	E101	13:00~16:30 (ただし、理工学研究 科1年生、社会情報学 研究科1年生は学生証 の交付になります。) 更新場所: F307・F308	新規希望者 (ただし、理工学研究科・ 社会情報学研究科のみ) 12:00 E201	4月2日(木)、3日(金) 9:00~10:30 13:30~16:30 ただし、理工学研究科 1年生、社会情報学研 究科1年生は4月7日 (火)9:00~10:30
文学部2年生 フランス文学科	9:30		10:00	E104			
文学部2年生 日本文学科	9:30		10:00	E102			
理工学部2年生	10:00	E棟2階 E206	10:30	E201(物理・数理、化学・生命科、機械創造工) E202(電気電子工、経営システム工、情報テクノロジー)			
理工学研究科	13:30	E301前	14:00	E301			
社会情報学研究科(社会情報コース)	13:30	B610	13:30	B610			

4月3日(金) 新2年生(経済・経営・国際政治経済・社会情報) ☆は学生番号を表す

学部・学科	書類配布	場所	履修ガイダンス	場所	学生証更新	奨学金募集説明会	健康診断(D棟)
経済学部2年生 経済学科	12:30	E棟1階 E106	13:00	E101(☆12108001~12108330) E102(☆12108331~最終番号および2007年度以前入学者)	13:00~16:30 更新場所: F307・F308	新規希望者 (ただし、学部生のみ) 10:00 E101・E102 ※国際政治経済学部、 社会情報学部は 4月1日(水)	4月2日(木)、 3日(金) 9:00~10:30 13:30~16:30
経済学部2年生 現代経済デザイン学科	12:30		13:00	E104			
経営学部2年生	12:30		13:00	E301(☆14108001~14108330) E302(☆14108331~最終番号および2007年度以前入学者)			
国際政治経済学部2年生	9:30		10:00	E301			
社会情報学部2年生	9:30		10:00	E201			

4月7日(火) 文学部1年次留年生 (注)履修ガイダンス開始前に同じ教室で「履修登録資料」の配布があります。

学部・学科	書類配布	場所	履修ガイダンス	場所	学生証更新	健康診断(D棟)
教育学科	9:30	E棟1階 E105	10:30	E203	4月7日(火)以降、窓口事務取扱時間内に、 学生生活グループ(B棟1階)で行います。	4月7日(火)、 8日(水) 9:00~10:30 13:30~16:00
英米文学科	14:00		15:00	E101		
フランス文学科	10:30		11:30	E303		
日本文学科	10:30		11:30	E307		
史学科	14:00		15:00	E103		
心理学科【4月8日(水)】	9:30		10:30	E204		

※学年初頭の各行事および開始時間は上記のとおりです。各自あらかじめ計画して、指定の日時に出席して
ください。

※その他の行事については、学生ポータルの「2009年度初頭行事日程」を参照してください。

※履修ガイダンスの所要時間は60分程度です。

※健康診断の詳細は、学生ポータルの「2009年度初頭行事日程」または共通掲示板を参照してください。
※2年次編入学・転学部・転学科生も上記行事に参加してください。なお、健康診断は4月7日(火)・8日(水)
のいずれかで受診してください。

※健康診断を未受診の場合は外部(自費で約4000円)で受診することになり、証明書などの発行はできません。

卒業生へのメッセージ



卒業生の皆さんへ
校友会会長 原進

今春、本学を卒業される学部生、研究生の皆さんに心からお祝い申し上げます。青山学院の卒業生は学んだ教育、理念のもと、国内のみならず、世界各地であらゆる分野において活躍されており、青山学院が高く評価されていることに貢献しております。これから卒業される皆さんにも大いに期待するところ

です。さて、皆さんは卒業と同時に「青山学院校友会」の正会員として迎えられることになっており、心より歓迎申し上げます。設立116年の歴史を持つ校友会は、校友相互の親睦と母校との絆をつなぐため、また母校の発展に寄与するため組織されております。建学の精神を正しく継承している校友会活動を通じての諸先輩との交流は、皆さんの人生をさっと豊かで有意義なものにしてくれることと思います。そして毎年9月に青山キャンパスで開催されます同窓祭に参加いただけますと何年、何十年経ってもきっと青春の思い出が甦って来ることだろうと思います。

校友会組織は皆さんが在籍した各学部、学科ごとの同窓会、体育会系、文化会系、ゼミ等のOB、OG会、その他あらゆる団体の参加する登録諸団体、そして国内55カ所、海外18カ所に地域の支部があり、卒業後どこに行かれても校友会組織に加入することが可能です。複数加入も歓迎ですので是非ご参加されることをお勧めいたします。最後になりましたが、皆さんのご活躍と幸多き人生でありますようにお祈り申し上げます。

青山学院校友会センター

校友センター窓口案内

「青山学院校友会センター」は卒業生と母校青山学院とを結ぶ窓口です。センターでは、同窓会、校友会の国内支部および海外支部、各種OB会、クラス会等の紹介・取次をはじめ、「青山学院維持協力会」の入会受付、「青山学報」定期購読の申込受付、校友会集会室利用の申込受付、さらに校友向け情報誌「AOGAKU Chimes」の発行・発送など、さまざまな活動を展開。また、卒業生全員が会員となる「青山学院校友会」の本部事務も担当しています。これらの活動には卒業生の基本情報が不可欠です。個人情報の管理は適切かつ厳格に行っておりますので、住所・氏名等の変更がありましたら、必ず校友センターまでご連絡ください。

「AOGAKU Chimes」(あおがくチャイムズ)について

新卒業生には、卒業生と青山学院を結ぶ「絆」雑誌、「AOGAKU Chimes(あおがくチャイムズ)」を第10号(次号)から毎年1回、ご登録いただいた住所に無料でお届けいたします。本誌は、青山学院と青山学院校友会の共同制作によりお贈りするもので青山学院、青山学院校友会から様々な情報を発信いたします。氏名、現住所、勤務先などに変更が生じた場合は、必ず青山学院校友会センターにお知らせください。



ホームページもご覧ください。 <http://www.alumni-aogaku.jp/>



卒業後の連絡先一覧

03-3409-8111 (代表・青山キャンパス)
042-759-6000 (代表・相模原キャンパス)

大学ホームページ
<http://www.aoyama.ac.jp>

	担当事務局	お問い合わせ先	備考
卒業・修了、成績証明書の交付	学務部教務課	03-3409-7830	人文・社会科学系学部対象 ※第二部(夜間部)を含む
	学生支援ユニット学務グループ(※)	042-759-6003	理工学部・理工学研究科・社会情報学部・社会情報学研究科対象
	大学院事務局	03-3409-7831	文学・経済学・法学・経営学・国際政治経済学・総合文化政策学研究科対象
	専門職大学院事務局	03-3409-8025	国際マネジメント研究科・法務研究科・会計プロフェッション研究科対象
科目等履修生案内	学務部教務課	03-3409-8047	人文・社会科学系学部対象 ※第二部(夜間部)を含む
	学生支援ユニット学務グループ(※)	042-759-6003	理工学部・理工学研究科・社会情報学研究科対象
	学務部教職課程課	03-3409-9634	
	学生支援ユニット学務グループ(※) (教職課程担当)	042-759-6032	教職課程対象
	大学院事務局	03-3409-7831	文学・経済学・法学・経営学・国際政治経済学・総合文化政策学研究科対象
	専門職大学院事務局	03-3409-8025	国際マネジメント研究科・会計プロフェッション研究科対象
学力に関する証明書の交付 (旧・基礎資格及び単位修得証明書)	学務部教職課程課	03-3409-9634	
	学生支援ユニット学務グループ(※) (教職課程担当)	042-759-6032	免許状授与証明書は、免許状の交付を受けた都道府県の教育委員会へお問い合わせください。
公開講座案内	庶務部庶務課(公開講座担当)	03-3409-7955	3月中旬より「2009公開講座 GUIDE BOOK」を配布予定です。
図書館の利用	図書部運用課	03-3409-7858	卒業生の図書資料の貸出には、利用カードの申請が必要です。
	教育・学習支援ユニット図書グループ(※)	042-759-6027	http://www.agulin.aoyama.ac.jp/
大学院案内	大学院事務局	03-3409-7831	文学・経済学・法学・経営学・国際政治経済学・総合文化政策学研究科対象
	学生支援ユニット学務グループ(※)	①042-759-6033 ②042-759-6072	①理工学研究科対象 ②社会情報学研究科対象
専門職大学院案内	専門職大学院事務局	03-3409-8025	国際マネジメント研究科・法務研究科・会計プロフェッション研究科対象
キリスト教に関する相談(教会紹介など)	宗教センター(ウェスレー・ホール1F)	03-3409-6537	
住所・氏名変更連絡先 「青山学報」定期購読の受付 「青山学院維持協力会」の入会受付 校友会支部等連絡先紹介 校友会集会室利用の申込受付	青山学院校友会センター	03-3409-6645	校友センター http://www.aoyamagakuin.jp/center/index.html
	青山学院校友会本部	03-3409-9773	E-mail agkyou@jm.aoyama.ac.jp
	(アイビーホール青学会館2F)	FAX 03-5485-3616	校友会 http://www.alumni-aogaku.jp/
		校友会集会室専用 03-3409-8628	E-mail alumni@jm.aoyama.ac.jp
学院の歴史資料、メジスト教会関係資料閲覧	資料センター	03-3409-6742	資料閲覧希望の場合は、早めに連絡してください。 http://www.aoyamagakuin.jp/mcenter/
「青山学院 EVERGREEN 21 募金」などの受付	募金事務局(法人本部3F)	03-3409-6208 FAX 03-3409-3890	「青山学院 EVERGREEN 21 募金」、スカラーシップ制度へのご寄付、遺贈によるご寄付の申込受付。
大学同窓祭	大学同窓祭実行委員会事務局 (ウェスレー・ホール3F)	TEL・FAX共通 03-3409-8990(直通) ※月・水・金のみ	今年も9月23日(水・祝)に開催する予定です。実行委員としてお手伝いして下さる仲間を募集中です。
婚礼・会合施設	ブライダルサロン (アイビーホール内)	03-3409-8181(代表)	懇親会・同窓会・クラス会・OB会・アドグル・ゼミでの会合などにご利用ください。校友には、割引特典があります。 http://www.aogaku-kaikan.co.jp

(※)相模原キャンパス

●AGUニュースのバックナンバーは、大学ホームページでご覧になれます。

採用内定取消者等の卒業延期制度について

本学では、現在の経済不況から、就職活動において、内定取消等の通知を受けた大学4年次生を対象に、卒業要件を満たしていても在籍期間の延期を認める制度を制定いたしました。学費については、授業料の2分の1相当額を基本料としますが、本制度適用者として認められた場合は、さらに基本料の減免措置をとります。詳細については、青山キャンパス進路・就職センターまたは相模原キャンパス進路グループにお問い合わせください。

青山学院大学教育ローン

本学には、学部生・院生を対象とした銀行提携「教育ローン」制度があります。この制度は、青山学院と銀行が特別に提携し、無担保・低金利・在学期間中の元金返済措置等、一般の教育ローンより有利な条件を設定したものです。青山学院大学で学ぶ意志がありながら、経済的理由により修学を断念することのないよう、在学中の経済的な不安を解消し、勉学に専念できるよう配慮した経済支援制度です。

【特徴】

1. 一般の教育ローンより低金利で融資を受けることができます。
2. 担保・保証人は不要です（学生本人が融資を受ける場合、年収により保証人が必要になります）。
3. 在学期間中の元金返済据置の制度もあります（在学中は利息のみを支払い、卒業後、元金を併せて返済することができます）。
4. 原則として、融資された学費等は本学の学費振込用紙によって直接青山学院に振込まれます。
5. 既に学費を納入した場合でも、一定期間内であれば融資を受けることができます。

【利用資格】

本学学部生・院生の保護者または学生本人で銀行の定めた資格を有することが必要です。（横浜銀行は保護者のみ対象となります）

【必要書類】

1. 資金使途確認資料…学費納付書等
2. 本人確認資料………印鑑証明書、住民票、運転免許証、健康保険証の写し等のいずれか1通
3. 所得確認資料………所得証明書、源泉徴収票等のいずれか1通

【注意事項】

1. 契約はすべて銀行と融資を受ける者が行います。
2. 融資は学費（授業料他）等の教育資金に限ります。
3. 銀行によって、融資条件・金利等の契約内容に若干の差がありますので、契約する銀行に照会してください。
4. 年間学費相当分の借入れを希望する場合は、前期分学費納付用紙・後期分学費納付用紙が必要です。この場合、青山キャンパス所属の学部生は学生課、院生は大学院事務室、専門職大学院生は専門職大学院事務室、相模原キャンパスの学部生・院生は学生生活グループへ申し出てください。必要な学費振込用紙を送いたします。

【提携銀行】 (代表問合せ支店)

三井住友銀行	渋谷支店お客様相談課	TEL 03-3463-0101
みずほ銀行	渋谷中央支店ローン担当係	TEL 03-3462-0315
りそな銀行	渋谷支店ローン担当係	TEL 03-3498-3211
三菱東京UFJ銀行	青山支店お客様相談課	TEL 03-3409-3211
横浜銀行	ミニローンプラザ	TEL 045-225-2020

アドバイザー・グループに入ろう!

本学特有の課外活動で、アドバイザー・グループ（通称「アド・グル」と呼ばれています）の制度があります。このシステムは、教員がアドバイザーとして学生と人格的に交わることを中心に、教員と学生・学生相互が人生あるいは学問の先輩・後輩として、各種懇談会・読書会・見学旅行・ピクニック・ボランティア活動・各種スポーツ合宿などの諸活動を通して、物の見方・考え方、そして生き方を共に深く探求することを目的としています。

教室を離れ、アド・グルの教員を中心に集まった仲間と共に食べ、共に学び、人生を語ることはとても有意義なことです。在学中ばかりでなく、きっと卒業後にも交わりが深まり、一生を通して心を高め合うことのできる価値ある出会いの場ともなります。

新入学生はもちろんのこと在校生も、有意義な“つながり”として、積極的に参加しましょう。アド・グルの参加は、1年毎の登録制度になっていますので、年度初頭に配布される「アドバイザー登録のしおり」を参照してください。

(学生部長 本郷 茂 記)

アドバイザー登録について

アドバイザーの登録	・受付期間 2009年4月11日(土)～21日(火) ・受付場所 相模原キャンパス 学生生活グループ(B棟1階スチューデントセンター) 青山キャンパス 学生部学生課(1号館1階)
-----------	--

その他	・アド・グルは、1年毎の登録制度になっています。 ・アドバイザーによっては、若干の条件や制限を設けている場合があります。 ・アドバイザーの選択は自由です。
-----	---

2008年度退職専任教員

2009年3月末日をもって退職される専任教員は次の方々です。
(○印は定年退職される教員)

一川 大輔	文学部 助教
BIZET, F.	文学部 フランス文学科 准教授(専任待遇)
LE LARDIC, M.	文学部 フランス文学科 准教授(専任待遇)
石橋 郁雄	経済学部 経済学科 准教授
小山 花子	国際政治経済学部 国際政治学科 助教
○太田 浩	国際政治経済学部 国際経済学科 教授
○支倉 壽子	国際政治経済学部 国際コミュニケーション学科 教授
○本名 信行	国際政治経済学部 国際コミュニケーション学科 教授
○矢部 義之	理工学部 教授
○小林 正	理工学部 物理・数理解学科 理工学部講師
有井 康博	理工学部 化学・生命科学科 助教
大津 英輝	理工学部 化学・生命科学科 助教
前原 幸枝	理工学部 化学・生命科学科 助手
○高梨 守弘	理工学部 電気電子工学科 理工学部講師
○豊田 吉願	理工学部 経営システム工学科 教授
坂元 克博	理工学部 経営システム工学科 准教授
加藤 菊乃	理工学部 経営システム工学科 助手
萩原 和典	理工学部 経営システム工学科 助手
大野 博之	理工学部 情報テクノロジー学科 助手
○長谷川輝紀	社会情報学部 社会情報学科 教授
飯塚 敏晃	国際マネジメント研究科 国際マネジメントサイエンス専攻 教授
江泉 芳信	法務研究科 法務専攻 教授
○岡田 良雄	法務研究科 法務専攻 教授

その他の月日をもって退職された教員

深町 正信	国際政治経済学部 教授
三 田 清二	理工学部 電気電子工学科 助教

Club & Circle Information

問い合わせ先
学生部学生課
Tel 03-3409-7835

*主な文化連合会・体育連合会の活動予定。

下記大会演奏会の日程・場所は予定のものです。今後変更になる可能性もあります。

主要活動予定(2009年4月～5月)

合気道部	第47回全日本合気道演舞大会(5月)
アイススケート部ホッケー部門	秩父宮杯第58回関東大学アイスホッケー選手権(4月)
アイススケート部フィギュア部門	春期関東学生フリースケーティング選手権大会(5月)
空手道部	第37回関東学生空手道選手権大会(5月)
硬式庭球部	関東学生テニストーナメント(4～5月)
硬式野球部	東都大学春季リーグ戦(4～5月)
サッカー部	JR東日本2009第83回関東大学サッカーリーグ戦(4～5月)
柔道部	全国基督教関係大学柔道大会(5月)
準硬式野球部	第51回関東大学準硬式野球選手権大会(4～5月)
少林寺拳法	第46回少林寺拳法関東学生大会(5月)
ソフトテニス部女子	平成21年度関東学生春季リーグ戦大会(5月)
卓球部	関東学生春季リーグ戦(5月)
チアリーディング部	アジア・インターナショナルチャンピオンシップ(5月)
軟式野球部	東都大学軟式野球連盟春季リーグ戦(4～5月)
バスケットボール部男子	第58回関東大学バスケットボール選手権大会(5月)
バドミントン部	関東学生バドミントン春季リーグ戦(4月)
バレーボール部女子	春季関東大学女子1部バレーボールリーグ戦(4～5月)
パワーリフティング部	第36回全日本学生パワーリフティング大会(5月)
フェンシング部	ジュニア・カデ世界選手権大会(4月)
レスリング部	JOC杯ジャパンジュニアオリンピックカップ(4月)
陸上競技部	第88回関東学生陸上競技対抗選手権大会(5月)
オーケストラ部	第94回定期演奏会(5月)
グリーンハーモニー合唱団	東京六大学混声合唱連盟第51回定期演奏会(5月)

主要活動報告(2008年12月～2009年3月)

フェンシング部	JOCジュニア・オリンピック・カップ大会 女子エペ 一柳 風未 2位
バスケットボール部男子	第60回全日本学生バスケットボール選手権大会 3位 優秀選手賞 荒尾 岳
馬術部	第44回全日本学生馬術女子選手権大会 木林 里乃 3位 平成20年度かながわゆめ国体記念大会 中野 亜耶(第16競技 小障害100cm) 1位 元野 法子(第22競技 中障害D) 2位 元野 法子(第27競技 中障害D110cm) 3位 元野 法子(第30競技 中障害C120cm) 1位
バドミントン部	平成20年度関東学生バドミントン新人選手権 (男子) 男子ダブルス 宮本 大地・藤井 亮 準優勝 (女子) 女子ダブルス 加藤 祥子・岡本 麻菜美 ベスト4 女子団体 3位
バレーボール部女子	平成20年度第61回秩父宮賜杯・第55回秩父宮妃賜杯 全日本バレーボール大学男女選手権大会 優勝 最優秀選手・セッター賞 土田 望未 ベストスコアラー賞 江森 圭美 リベロ賞 伊藤 彩香 優勝監督賞 生瀬 良造
陸上競技部(長距離ブロック)	第85回東京箱根間往復大学駅伝競走大会 22位
レスリング部	天皇杯全日本選手権 河野 隆太 3位 丸山 明子 3位

青山スタンダード
テーマ別科目 自然理解関連科目
「ゲノム」



降旗 千恵
理工学部化学・生命科学科 教授

「ゲノム」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。1つの細胞に含まれる全遺伝情報をゲノムと言います。ヒトの場合遺伝情報はDNAという化学物質にあります。1953年にWatson & CrickがDNAの二重らせん構造を発見しました。それ以来DNAの研究は発展を続け、50年後の2003年にヒトゲノム計画としてヒトゲノム(DNA)の全塩基配列が解読されました。これは1969年のアポロ計画による月面着陸成功に匹敵する科学の快挙と賞賛されました。「ゲノム」という言葉は20世紀には専門家しか知らない言葉だったと思いますが、21世紀になって世間の人々の目にも触れる言葉となりました。

ヒトゲノム計画に限らずこの10年ほど関連のライフサイエンス分野は爆発的な発展を続けて世の中を根底から揺るがす力を持つに至りました。もはや先端のライフサイエンスを知らずして生きることが出来なくなりました。そこで、ゲノム科学の基礎から応用までを人文・社会科学系の学生にも理解できるように易しく講義することを目指してこの講義科目を作りました。実際に受講者は人文・社会科学系と理系が半々になっています。

講義内容は「細胞の構造」から始めて、「遺伝子DNAは生物の設計図であることを講義し、「遺伝子の情報からタンパク質が合成される仕組み」、「子孫へ遺伝子の情報が伝わる仕組み」と基礎的な知識を講義した後、応用編として「ヒトゲノム計画によるヒト

DNAの全塩基配列の解読」、「遺伝子診断」、「遺伝子治療」、「DNA鑑定」などを含みます。

さて、青山スタンダード科目の「ゲノム」は青山スタンダード科目としては数少ない実験付きの講義をしています。実験は相模原キャンパスO棟2階の生物学実験室で行っています。1回目のテーマは「細胞の核を見る」で、プラスチックスプーンで自分の口内細胞を擦り取って、ギムザ染色して、各自1台の光学顕微鏡を使って、細胞の中でDNAが格納してある「核」を見てスケッチします。2回目は「細胞からのDNAの抽出」で、研究に使われる実験動物であるマウスの組織から、研究室で行われるのと



同じ方法でDNAを抽出して、目でみます。3回目は「DNAの電気泳動による分離」で、研究室で行われるのと同じ方法で長さの異なるDNA断片を電気泳動法で分離して、結果を目でみます。最近は研究用キットが発達しているので、実験を初めてする学生でも皆うまく結果が出て、学生達に新鮮な驚きを与えることができます。相模原キャンパスでは来年度からスペースの問題により、生物学実験室が閉鎖されることになりました。2012年の就学キャンパスの再配置を前に、非常に残念なことです。なお、来年度のゲノムの実験は同じO棟の化学実験室を使って続行する予定になっています。



2009年度 公開講座

本学では、大学での教育および研究の成果を広く社会に公開し、社会人の教養を高め、文化の向上に資することを目的に、地域社会への貢献という使命から1990年より公開講座を開講しています。

渋谷区との共催による講座（青山キャンパス）や相模原市・座間市の市民大学としての講座（相模原キャンパス）も展開しています。

本学公開講座は、テーマに基づき1シリーズ5講座で構成され、受講者の声を反映し年齢や資格による受講の制限はなく、どなたでも受講いただけます。

2009年度は、青山キャンパスにて2シリーズ（10講座）、相模原キャンパスにて4シリーズ（20講座）の計6シリーズ（30講座）を開講する予定です。

青山キャンパス開講

環境を多角的視点から考える（渋谷区教育委員会共催講座）

毎週土曜日 14:30～16:00

- 6月13日●環境についての学問的考察
東京大学名誉教授 今道 友信
- 6月20日●観測データから考える地球環境問題
青山学院女子短期大学家政学科教授 廣田 道夫
- 6月27日●環境問題をグローバルな視点から見る～問題解決を目指して～
青山学院女子短期大学非常勤講師 渡部 徳子
- 7月4日●新しい環境～技術連関と都市論～
青山学院女子短期大学芸術学科教授 橋本 典子
- 7月11日●人間環境と情報社会
東京大学大学院教授 岩 田 修一

王の表象～文学と歴史学の境界～（渋谷区教育委員会共催講座）

毎週土曜日 14:30～16:00

- 10月3日●ローマ皇帝の権威と神性
青山学院大学文学部史学科教授 阪本 浩
- 10月10日●源氏物語と天皇像
青山学院大学文学部 日本文学教授 高田 祐彦
- 10月17日●古代中国の文学に見る皇帝像
青山学院大学文学部 日本文学教授 大上 正美
- 10月24日●フランス中世武勲詩と王のイメージ
青山学院大学文学部史学科教授 渡辺 節夫
- 11月7日●シェイクスピアに見る王の表象
青山学院大学国際政治経済学部教授 狩野 良規

お問い合わせ先

青山学院大学 庶務部庶務課企画運営係（公開講座担当）
〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25 TEL. 03-3409-7955（直通）
本学公開講座ホームページ
<http://www.aoyama.ac.jp/extension/index.html>

各講座の一覧・申込方法などの詳細を掲載したガイドブックをご希望の方は上記までお問い合わせいただくか、本学ホームページよりお申し込みください。

※講師、講義テーマ等に変更が生じる場合があります。
※講師肩書きは、2009年4月1日時点の情報を掲載しています。

相模原キャンパス開講

分子工作～世界で一番小さな仕事～

毎週土曜日 14:30～16:00

- 5月9日●分子機能の解明とナノテクノロジー
青山学院大学理工学部准教授 三井 敏之
- 5月16日●生命科学と動的平衡
青山学院大学理工学部教授 福岡 伸一
- 5月23日●電波利用の現状と将来
青山学院大学理工学部教授 橋本 修
- 5月30日●光る原子、光らせる原子～分子設計と光機能性材料の先端～
青山学院大学理工学部准教授 長谷川 美貴
- 6月6日●光に反応して発色する分子～調光サングラスや光メモリへの応用～
青山学院大学理工学部准教授 阿部 二郎

ビジネスローと企業倫理～金融、知財、税、人事労務分野を中心に～

毎週土曜日 14:30～16:00

- 6月13日●企業倫理の現状と課題～ビジネスローと企業倫理～
青山学院大学法学部教授 藤川 久昭
- 6月20日●企業倫理と金融～金融法務の観点から～
青山学院大学法学部教授 土橋 正
- 6月27日●企業倫理と知的財産～知財クリニックの病例～
青山学院大学法学部教授 菊池 純一
- 7月4日●企業倫理と税～税法務の観点から～
青山学院大学法学部教授 中村 芳昭
- 7月11日●企業倫理と労働～人事労務法務の観点から～
青山学院大学法学部教授 藤川 久昭

激動する社会と私たちの暮らし～様々な情報とどう向き合うのか～（相模原市・座間市共催 市民大学青山学院大学コース）

毎週土曜日 14:30～16:00

- 10月3日●世界のエネルギー・地球温暖化問題を考える
～今後の国際情勢をどうという視点でみるか～
青山学院大学社会情報学部教授 石田 博之
- 10月17日●日本の国際観光を考える～現状、政策そして地域活性化を期待して～
青山学院大学社会情報学部教授 長橋 透
- 10月24日●世界金融危機を考える～私たちの生活、資産をどのように守るのか～
青山学院大学社会情報学部教授 開澤 栄相
- 10月31日●コミュニケーションデザインと教育～これからの学力観を考える～
青山学院大学社会情報学部教授 刈宿 俊文
- 11月7日●裁判員制度の心理学
～市民と裁判官のコミュニケーションをどうデザインするか～
青山学院大学社会情報学部教授 高木 光太郎

世界の諸宗教と平和

毎週土曜日 14:30～16:00

- 11月14日●ユダヤ教～古代から現代への問いかけ～
青山学院大学宗教部長・経済学部教授 大島 力
- 11月21日●キリスト教と平和
青山学院大学宗教主任・専門職大学院国際マネジメント研究科教授 西谷 幸介
- 11月28日●イスラム教
青山学院大学宗教主任・文学部准教授 シュー土戸 ボール
- 12月5日●ヒンドゥー教と心の平安——比較宗教学の観点から——
青山学院大学名誉教授 廣瀬 久允
- 12月12日●仏教
青山学院常務理事 青山学院大学法学部教授 西澤 宗英

2009年度 ペアレンツウィークエンド

本学では、大学後援会事業の一環として、大学の近況を保護者の皆様にお知らせするとともに、ご子女の大学生活等についてのご相談やご意見をうかがい、それを大学運営に反映させることを目的に懇談会を実施しています。

2009年度ペアレンツウィークエンドは5月下旬からの開催を予定しており、対象の方には4月下旬以降にご案内いたします。また、ホームページでも随時、情報を更新していきます。

<http://www.aoyama.ac.jp/target/parents/index.html> 【お問い合わせ先】庶務部庶務課 TEL. 03-3409-8568（直通）

2009年度一般入学試験、大学入試センター試験利用入学試験志願者数

2009年度一般入学試験、大学入試センター試験利用入学試験は、昼間部・第二部（夜間部）すべての出願が終了しました。一般入学試験の志願者数は、昼間部40,077名、第二部（夜間部）516名、合計40,593名（昨年度35,987名）となりました。

また、本年度新規に総合文化政策学部、社会情報学部、経営学部マーケティング学科を加えて実施した大学入試センター試験利用入学試験の志願者数は14,337名（昨年度11,223名）となりました。なお、2009年度志願者数の詳細については、ホームページにて公開しています。



2009年度一般入学試験

2010年度より教育人間科学部で、「大学入試センター試験利用入学試験」を新規に実施。

2010年度より、教育人間科学部（教育学科・心理学科）で、新たに「大学入試センター試験利用入学試験」を実施いたします。また、文学部英米文学科および日本文学科でも新規に実施いたします。それぞれの詳細については、ホームページをご覧ください。

2009年度オープンキャンパス等開催日程

青山キャンパス

青山キャンパスでは開催日によって対象学部が異なりますのでご注意ください。

オープンキャンパス（予約不要・入退場自由）

- 2009年7/19（日）10:00～16:00
対象学部：文学部（第二部含む）、教育人間科学部、総合文化政策学部、理工学部
- 2009年7/20（月・祝）10:00～16:00
対象学部：経済学部、法学部、経営学部、国際政治経済学部、社会情報学部
- 2009年8/29（土）10:00～16:00
対象学部：全学部

社会人のための大学・大学院説明会（予約不要・入退場自由）

- 2009年7/19（日）10:00～16:00
対象（予定）：学部（文学部第二部英米文学科、教育人間科学部心理学科）
大学院（文学、教育人間科学、法学、経営学、国際政治経済学、総合文化政策学、理工学、社会情報学）

相模原キャンパス

オープンキャンパス（予約不要・入退場自由）

- 2009年7/12（日）10:00～16:00
対象学部：全学部

※詳細については、決定次第、大学ホームページにて随時お知らせします。

News Index 2008.12～2009.2

2008年12月上旬～2009年2月中旬までの大学ウェブサイト「新着情報」の主なタイトルを掲載しています。

08年12月

- 第94回WTO Forum 専門家会議兼研究会を開催しました
- 平成20年度大学院教育改革支援プログラムの取り組み「学際性を備えた実践的科学者・技術者の育成」のウェブサイトを開発しました

09年1月

- 第85回箱根駅伝 33年ぶりに出場しゴールしました!
- 本学男子バスケットボール部が全日本総合バスケットボール選手権大会（ALL JAPAN 2009）でベスト16
- 文学部日本文学科 日置俊次ゼミの学生が、第3回「好きな人に贈る 百人一首」短歌コンテストに入賞しました

- 本学サッカー部の中村祐人選手が香港1部リーグ・TSWペガサスに入団しました
- 経営学部4年 水谷夏女さんがフリースタイルスキーの北米カップでベスト16
- 理工学部電気電子工学科 橋本修教授とGFP JAPANがETC用電波吸収体を開発
- 「青山学院スタイル2008」で法務研究科（法科大学院）を紹介
- 学校法人青山学院と学校法人横須賀学院の「教育提携協定」締結について

09年2月

- 秋光純理工学部教授のグループが、高エネルギー加速器研究機構・総合研究大学院大学のグループと共同で、新しい超伝導現象の仕組みを明らかにしました

アドバイザー・グループ紹介 ②

統合が新たな“モノづくり”を生み出す 〈佐久田・林アド・グル〉

2009年度から「林（光）アド・グル」と「佐久田アド・グル」が統合して、「佐久田・林アド・グル」としてスタートすることになりました。これまで航空宇宙に関する活動を中心としていた林アド・グルと、情報とモノづくりについて勉強してきた佐久田アド・グルが一緒になることで、より幅の広い活動を展開していくつもりです。



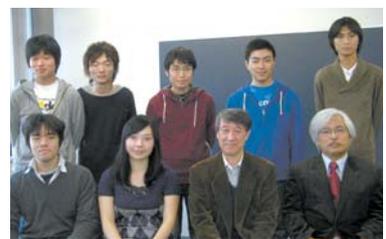
理工学部機械創造工学科
林 光一 教授



理工学部情報テクノロジー学科
佐久田 博司 教授

例えば、林アド・グルが取り組んできた人工衛星を青山学院大学として打ち上げようとの計画や、佐久田アド・グルが行ってきた微小重力航空機実験の企画などを考えています。どう見ても“理工系”

と思われるでしょうが、実は文系の学生が多いことも2つのアド・グル共通の伝統。普段は“製作”や“実験”に携わる機会の少ない文系の学生にも“モノづくり”の楽しさを伝えたいですね。



2009年度はF1カーを設計・製作し、実際に競技会で競争しようという計画もあります。特にマネジメントが大切で、文系の学生でF1に興味のある学生は是非、佐久田・林アド・グルに参加してください。期待しています。

AGUニュースについて

青山学院大学では、大学広報誌「AGUニュース」を年5回（1月、3月、5月、7月、10月）発行し、在学生の保証人の方々へ送付しています。また、在学生を対象としてキャンパス内AGUニュース専用スタンドにて配布しています。

- なお、「AGUニュース」を確実に保証人の方々へお届けするため、住所が変更になった場合は、住所変更の手続きをお取りください。

青山キャンパス→学生部厚生課
事務取扱窓口
相模原キャンパス→学生部厚生課